

平成28年度第2回 高砂市文化振興審議会

日 時 平成28年11月14日(月) 17:00～
場 所 高砂市役所南庁舎2階 会議室2

出席委員	会 長	田端 和彦	委 員	唐津 哲男
	副 会 長	岩見 一美	委 員	高橋 賢吉
	委 員	原 英俊	委 員	前田 栄一
	委 員	天野富美男	委 員	松本 克英
	委 員	渡邊 紀子		

欠席委員 委 員 堀田 真弘 (代理出席者) ○○ ○○

出席事務局職員

健康文化部長	岸本 修
健康文化部 くらしと文化室長	増田 浩之
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課長	森岡 修平
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課主幹	前川 吉也
健康文化部くらしと文 化室文化スポーツ課主任	○○ ○○
教育部教育推進室長	木村 敏郎
生活環境部産業振興課長	増田さと子

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 議 題
(1) 平成29年度予定事業について
- 6 そ の 他
(1) 今後のスケジュールについて
- 7 閉 会

(午後 5時00分 開会)

○事務局

ただいまより平成28年度第2回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、高砂市文化振興審議会の運営に関する規定に基づき、公開とさせていただいておりますが、本日、傍聴希望者はございません。

次に、当審議会委員の変更がございますので、ご報告させていただきたいと思っております。

高砂商工会議所よりご推薦の森本委員が、同会議所の役員改選に伴いまして、文化担当に就任されました堀田真弘様に後任を務めていただくこととなりました。本日は欠席のため、代理でご出席いただいておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

それでは、ここで本日の資料の確認をまずさせていただきたいと存じます。

(資料確認)

続きまして、次第の2へ移りたいと存じます。

当審議会の開催に当たりまして、健康文化部長よりご挨拶を申し上げます。

部長、よろしくお願いをいたします。

○事務局

(部長 あいさつ)

○事務局

引き続きまして、田端会長よりご挨拶をお願いいたします。

(会長 あいさつ)

○事務局

本日の会議ですが、出席者が9名、欠席者が1名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため、会議は成立していることをご報告いたします。

次の議題へと移りたいと思っております。

その前に、代理出席について、代理出席者は審議会の定足数に含めない。また、代理出席者には審議会における議決権は付与しない取り扱いとなっております。あらかじめ、皆様方にはご了承よろしくお願いをいたしたいと思っております。

今後の議事進行を会長にお譲りしたいと存じます。

会長、よろしくお願いをいたします。

○議長

議題に入る前ですが、前回の審議会では回答が十分できてなかったところがございますので、その件に関して事務局でお調べいただいておりますので、まずその件からご説明お

願いできますでしょうか。

○事務局

まず、地場産業人材育成等支援事業について、織機等の機材の件ですが、織機等の機材は高砂物産協会が購入しまして、作業所、高砂町今津町510番地に設置をしております。帆布の織機は、騒音、振動発生をする重機であるため、住宅地区の設置は難しい、工楽邸がある位置は住宅地であり設置ができないために、準工業地区内に設置をしています。織機等の機材が補助金全体の約4分の1を占めておりまして、その機材は市の備品にはなりません。

職人の募集につきましては、高砂市や高砂物産協会のホームページで募集を行う、募集チラシを市内の公共施設や商工会議所に配付をしております。また神戸新聞でも募集を行っております。

講座につきましては、平成27年度は主に高砂公民館で行ってまして、28年度以降は作業所で行っています。現在、講習会には10名以上の受講者がいますけど、最終的には織技術の取得者、3名以上を目標としております。平成28年度は、講座にかかる主に講師料及び教材費の補助をしています。なお、平成28年度も国の交付金を活用しております。

そこで、評価につきましては、最終目標とは別に年度ごとの目標をここに設定しまして評価していくことにしております。1年目の目標を織職人育成講座の開講及び実習施設の整備等に変更しまして、評価の見直しを行っていきます。

前回の市史編さんについて、専門知識やノウハウを持つ職員がいないために整理ができないことにつきまして、この評価説明が誤解を与えたようでしたので、ちょっと訂正させていただきまして、市では市史編さんのための専門知識を有する者を嘱託職員として1名任用しまして、平成27年度末までには、市史の第7巻の刊行に力を入れております。今は市史の刊行も完了しまして、販売も落ちついてきておりますので、今後は専門知識を有する職員を収集した資料の整理に専念させることも可能になると考えております。また、市史編さんを目的とする専門員は1名しかいないですが、今後は教育委員会に勤務する学芸員との連携や所属の一元化を図るなど、高砂市として有するノウハウ、知識を総合的に活用して、収集した資料の整理を進め、市民が活用できるようにしていきたいと考えております。

また、ボランティアの活用については、今後、資料整理を進める中で、適切な方がおられるかどうかも含めた検討を行いたい。

予算の増額につきましては、市全体が限られた予算の中で多種多様な事業を実施しておりますが簡単ではございませんが、市史にかかる費用につきましては、専任の職員を配置するための予算は計上する予定で、その中で事業の進捗を図りたいという回答をいただいております。

高砂分署の話もありました、高砂分署旧庁舎の保存・改修事業についてです。平成2

8年9月に旧高砂消防会館・南本町巡査派出所としまして、国の登録有形文化財に意見具申、申請をしております。国の文化審議会で登録の答申があれば登録原簿に記載されますけども、現時点ではいつになるのかはわからないということです。

たかさご万灯祭の評価について、前年度よりもイベント会場は高砂の分署や駅前の広場とかもふえまして、にぎわいもふえたんですが、来場者数が少し減少したためにA評価としております。

あと、あらい浜風公園につきましては、他の公園との差別化を図りまして、将来的には誰もが自由に音楽ができ、新たな若者の音楽の発信地をつくりたいという思いでフェスティバルを開催しております。平成28年度は実施を見送ってしまして、平成29年の春の開催を目指してはおりますが、年1度その公園で音楽ができることをPRするために、現在は電源の設備とか常設ステージの設置などを兵庫県にお願いをしているところです。関係機関とまた協議調整を行っていきたいと考えているところでございます。

「たかさごの観詰」の発行部数の話があったんですが、1万2,000部を年間3回で合計3万6,000部を発行しています。そのほかに、ポスターとかパンフレットの作成もしております。

夢のシロの話があったんですが、市民提案型地域協働推進事業、夢のシロ補助金について、この審査につきましては、1公平性、2独創性、3協働有効性、4実現性・実効性、5発展性という基準項目に基づきまして厳格な審査を行っているところです。今後もそういう公平性を保った審査が実施されるように努めたいということです。

また、新規で始めようとするグループに対して、総合戦略を推進する市民活動団体の設立や活動を支援する未来戦略推進活動支援補助金が今年度から新設されてきておりますので、こちらの活用も検討いただきたいとのことでございます。

あと、高砂フィルムコミッションの話があったんですが、高砂フィルムコミッションの映画の魅力を伝える事業についてです。平成27年度は高砂市から補助金は交付しておりませんが、他団体からの補助金や繰越金等を活用しまして、約200万円の予算で活動しております。また、CM再生回数の目標を5万回以上に設定していましたのでB評価としております。

あと、高砂物産協会、2,000万、2,000万と表示がありまして、高砂物産協会に合計4,000万交付していると捉えたらよろしいかという質問がありましたけども、再掲の表示漏れがございまして、平成27年度高砂物産協会の地域ブランド商品の関連としまして、2,000万円の補助金を交付しております。

以上、不足していた部分、また調べさせていただいた点ご報告させていただきます。

○議長

お手元にも前回の議事録もありますので、それと対照いただきながら、前回ではお答えが十分なかったところについてのお答えがございました。最後にありましたように、一部記載の表示漏れで誤解を与えた部分があったということで、これは大変申しわけな

く存じます。

今、ご説明いただいたわけですが、この件につきまして再度ご確認すべきところとかあればお願いをいたしますが、いかがでしょうか。それぞれ、きちっと読み取れなかったがゆえに評価がなかなか難しかったところもあったと思いますので、こういったご確認事項ですが、いかがでしょうか。

○委員

内容についてじゃないですけど、できたら文書で簡略化したいですね。

○議長

そうですね。

○委員

細かい説明は今、していただいて、回答は簡略化した文書で良いので事前にいただいたほうがよかったかなと思うので。

○議長

また、皆さんには何らかの形で、先ほど言っていたことを文書にさせていただいて、お願いをしたいと思います。

ほかよろしいでしょうか。何かお気づきのこと。よろしいでしょうか。

そうしましたら、前回、少し足りなかった点についてご紹介いただいたということでございますので、この件につきましては終わらせていただきまして、議題の1番に入っていきたいと思います。

平成29年度事業、まず事務局から概要のご説明をお願いいたします。

○事務局

A3の平成27年度事業結果・平成28年度事業・平成29年度予定事業の資料をお願いいたします。

まずは、1ページをお願いいたします。1-1-1、文化スポーツ課の高砂文化教室「高砂学」についてでございます。

28年度は主に活動編を実施いたしました。活動編を実施しましたが、講座編を求める声もありましたことから、平成29年度につきましてはテーマを決めまして、講座編を実施する予定でございます。テーマは高砂ゆかりの人物としまして、今までに「高砂学」の講座で取り上げていない人物、山片蟠桃、佐々木すぐる、大西唯次、森 はなの4名をまた市民講師による講座で開催する予定をしております。開催時期につきましては、7月の土曜日を予定しております。

活動編ですが、28年度好評でした、高御位山の自然観察会と「浜のかあちゃんの料理教室」、竜山石でのランタンづくりと高砂染めの体験。2月にまた予定してるんですが、宮本武蔵が残した野田派二天一流体験を予定しております。まち歩きも好評だったんですが、まち歩きにつきましては趣向を変えてみまして、高砂町を、今度はウオークラリーの形式で実施してみようかなと検討をしております。それと、28年度実施しま

した申義堂での寺子屋編1回と謡曲編5回も続けて予定しております。

次、2ページをお願いいたします。

1-1-1の地場産業人材育成等支援事業ですが、前回、ご意見をいただきまして、目標は年度ごとの目標に変更しまして、27年度の新年度の目標は講座の開設及び実習施設の整備に改めまして、28年度の目標は「月2回以上講座実施」に改めまして、29年度の目標としまして織職人3人の育成を目指すこととしております。

次、4ページをお願いいたします。

1-2-1、下から3行目の環境政策課、自然観察会です。これ廃止となっておりますが、これは「高砂学」で、高御位山自然観察会で実施をすることとしております。

それと次、10ページをお願いします。

10ページの2-2-6、下から3行目の都市政策課、あらい浜風公園夕日の写真展です。平成28年度で10回目となりまして、一応、今年度で終了となります。もともとの写真展ですが、あらい浜風公園ができたことのPRの一環で写真展が実施されておりまして、夕日がきれいなスポットができたということも周知できまして、当初の目的も達成できたことにより29年度からは廃止となっております。公園がわかるように撮ることが募集要項にうたわれていまして、大体撮る構図が決まってしまっておりまして、応募する人もパターンが同じになって、応募も減少しているということで、10回目ということで29年度から廃止するというごさいます。

2-2-7、生涯学習課の文化資源、石の宝殿・竜山石切場の保存、活用です。平成28年度に史跡保存活用計画を策定しまして、29年度と30年度の2年をかけまして、今度は保存活用計画に基づく整備計画を策定する予定でございまして。

その下、また2-2-7、工楽松右衛門旧宅保存整備事業につきましては、平成28年度に一部改修しまして、平成29年度、30年度にまた改修工事をする予定となっております。28年度には屋根とか、主に耐震を行いまして、最終的には30年度までには内装も含めた改修を行っていくということでございまして。

それと13ページをお願いします。

一番下、美化センターのリサイクル啓発講座です。これにつきましては、平成29年度から広域ごみ処理施設の整備に係るために廃止になっております。

次、14ページをお願いいたします。

3-1-8、上から2行目のSEA SONICです。平成28年度は事業の実施は見送りまして、29年度の開催を今目指しております。

次は17ページをお願いします。

3-3-4、文化スポーツ課の下から4行目です。文化会館・文化保健センターの施設整備ですが、29年度は防犯カメラ設置計画に基づきまして、文化会館・文化保健センターに防犯カメラの設置を予定しています。それと、文化保健センターのエレベーターにつきましては、補修部品の供給終了によりまして、事故の未然防止や利用者の安全

のためにエレベーターの更新工事を予定しております。

20ページをお願いいたします。

5-1-3、上から3行目ですが、産業振興課、高砂観光交流ビューローのところで、夫婦和合・結びのまち推進事業ですが、平成28年度から高砂観光交流ビューローができて、ブライダルシティ高砂ということで、結びのまち、高砂に行きたくなくなる何かそういった事業をつくって考えていこうということになっております。28年の事業報告等はまだ出ておりません。予算につきましては、そのビューローの運営の補助でございます。29年度も継続する予定でございます。

簡単ですが、説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長

いつも事前のご報告、送付させていただいておりますので、今、説明のところはかなり大きな変更があったりとか、当初、前回お配りさせていただいたもので、例えば廃止になってるけども別の形で継続するとか、事業ベース的なお話が中心になったのでなかなかわかりにくいところもおありだったかもしれません。

その件についてのご質問でも結構ですし、それから皆さんに事前に見ていただいて、評価を踏まえて新しい事業をされてるはずですけど、これはどうなのかとか、あるいは予算的なものについてのもとか、あるいは目標値がこれで適切かどうかとか、さまざまご意見おありじゃないかなと思うので、ざっくばらんで結構ですので言っていただいて、これはどうなのかという確認をしていただいたり、こうすべきじゃないかとか、ご意見を賜ればと思います。

ただ、お願いとしましては、何ページのどこというだけは必ず言ってください。探るのが大変ですので、事務局も探さないといけませんので、何ページのどこというのだけは言ってください。

ここからは、どうぞお気づきのところからで結構でございますが、いかがでしょうか。

○委員

さっきの説明の中で、1ページ目の一番上、4人の高砂の有名人、ゆかり。山片蟠桃、森はなさん、大西唯次さん、もう一人はどなた。

○事務局

佐々木すぐるの4名を、一応まだ講座ではしておりませんでしたので、来年度、ゆかりの人物で、高砂学の講座編で、この4名を取り上げて講座をいたしたいと考えております。

○議長

よろしいでしょうか。

○委員

済みません、次。3ページ一番下、1-2-1、歴史ガイドクラブに依頼することにより、市内の遺跡等の周知に努める。これ、うちいろいろとやらせてもろとんであり

がたいんですけど、そのためのガイドマップを以前からこっちにお願いしとんですけど、なかなかできそうにない。今、観光ビューローでは、何か最優先でやっていますということなんで、できたら早くそういうのをつくってもらえたら、ガイドをするとき非常に役に立つので、ひとつ早目にお願いしたいと期待しています。

○議長

これはいかがでしょうか。委員はよくご存じだから、今の現状についてお話あったんですが、ビューローである程度把握はされていますでしょうか。

○事務局

今、観光交流ビューロー、7月1日に設立しまして、中の事務をかためていくことで、なかなか事業を、目に見えて事業が進められてないと見えてくるんですが、一応シーターセールス事業でいろんな企業との調整とか、企業というか、こんなふうにPRしたらどうですかという企業さんからの提案を受けて協議させていただいたり、今回、東京で東播磨物産展を2市2町でしておりますので、そういう準備ですとか、細々したPRはさせていただいております。

観光ガイドマップの部分ですが、中で事務は進められてると思うんです。多分、観光協会から引き継いで、去年から「たかさごの観詰」を何回か発行しております。その内容が高砂町であったり、生石神社であったり、曾根であったりというのを1回つくっておられるんで、それをまとめた形で、マップも欲しいというのも、ほかからも聞いておりますので、市内全域が載ったマップで調整はされていますが、まだ詰められてないので、もうしばらくお時間が必要かなと思います。

観光協会の事業では、来年度予算でということをお伺いしてるんで、今年度は、予算的には観光協会の中では入ってるかなと。まだそこまで、いつぐらい完成と聞いておりませんので、確認しまして、またご報告だけ文化スポーツ課にさせていただいてよろしいですか。

○委員

はい、わかりました。

○議長

ありがとうございます。

○委員

そしたら、今の話ですけれども、いろんなところで、いろんなマップの準備とかされてるんですね。産業、それから観光協会。そうすると、それを市としてはきちっと内容が正確かどうかは、どこでチェックされていますか。やっぱりこれだけ、あと観光ガイドマップなんか出しますと、間違ってることも往々にして載ることありますよね。そういうところの正確さのチェックはどこがされていますか。

○議長

どうぞ。

○事務局

一応、案ができた段階で市はチェックさせていただきます。以前ですと、市と観光協会がダブルチェックにかけさせていただいた上に、掲載するお店の情報でありますとか電話番号とかは、そのお店に1回見ていただきます。それで全てオーケーで発行するんですけども、やはり見落としがある部分もありますが、できるだけその辺は掲載内容はいろんな目で見えてチェックさせていただいてます。

○議長

よろしいでしょうか。

○委員

はい。

○議長

ほか、もうよろしいですか、今。

○委員

はい、……。

○議長

ほかはどうですか。いかがでしょうか、何かご意見、ご質問があればお願いいたします。

○委員

6ページです。

下水道、まちづくりの交通安全、花と緑の写生とか、ポスターがいろんなところではいっぱいあるんですが、真ん中の、6ページの上から4の下水道経営課の下水道、いろいろコンクールのポスター、28年度もなし、29年度も完全に廃止の形がとられてるんです。下水道とかは、やはりPR、汚い部分ではありますが、とても大事な部分であるので、こういうポスターの啓発は大事なことでないだろうかと思うんですが、そこら辺はどうですか。

その中で、高砂マラソンポスターもまだ未定になってるんですね。そこら辺の意味合い、どれを残してどれを廃止するという計画性はどのようになっているんでしょうか。よろしくをお願いします。

○事務局

下水道、いろんなポスターやっておるんですが、それも絵を小学校等から募集しまして、それを使って原案にしておるんです。それも1つの方法であって、どういうふうにして、例えば下水道の理解を深めるために啓発していくかということ、今まで小学校から募集したりもしてたんですが、以前からも、ほかにも何か違う方法がないかということは、同じことをずっとするんじゃなくて、いろんな組み合わせはずっと考えていると聞いております。その中で違う方法をまた考えていきたいと……聞いておりますけども。

また、高砂マラソンにつきましては、一応、文化スポーツ課が事務局も持っておるんですけども、どうするのかは実行委員会で決めていくことになっておりますので、また実行委員会で、同じように小学生から募集しようかとなるのか、新たな違うやり方を考えるのかということは、また実行委員会で決定されますので、一応未定となっております。

○議長

ある意味、こうやってポスターだけ並べると、なるほどいろんなものがあるんだなど。これは、恐らく下水道経営課だけ見てたら、多分気づかなかったことだと思うんです。そういう意味では、文化政策で並べてみると、先ほど事務局からありました、小学校にこんなことをお願いしてたんだなどというのを改めてわかったので、そういう意味では行革にも役立つんだと改めて確認した次第です。

ただ、委員がおっしゃったように、下水道重要じゃないかと。何をもって重要性を判断するのかは、実は並べてみて初めて比較ができるんですが、恐らく各担当課そういうことを考えてないので、別の観点で選んでることになりますので、その意味で今回こういうふうに並べたことで、改めて何を高砂市は充実するんだというところがわかるのは、非常にある意味、おもしろい観点だなどと思いながら改めて拝見いたしましたけど、いかがですか、先ほどのお答えについては何か。

○委員

何かわかったような……。

○事務局

高砂市美術展で昨年度は高校から原画のポスター募集しまして、それを採用させてもらったものでポスター、チラシ、DMをつくりました。このたびの美術展につきましては、前回受賞された方の受賞者展を同時開催でやりますので、その受賞された方の作品を使った形でポスターやDMをつくっていきました。

ですので、別に文化とか絵画という形でいくとどうなるかというのはいいんですけども、主な目的はその事業をPRすることが目的なので、その年ごとにいろいろな方法を考えて、このたびは、例えば市の美術展につきましても前回受賞者の作品を、写真に撮ったものを並べる形で行ってます。その年ごとによってどういうやり方するのかは変わってくるかと思えます。

○委員

子供たちに、上水道、下水道、両方のことを知ってもらいたいなということありますので、ポスターに限りませんが、何かいい方法があって学んでいただくと、またあれと思いますね。

○議長

何かいいですか、……。

○事務局

済みません、確認しないといけないですが、水道と下水道は28年度から企業会計に

上下水道事業所になりました。その関係で昨年の28年度計画見てましたらポスター載ってますので、多分実施はされてると。ただ、上下水道になって企業会計に回ってますので、ここが空欄になってるということではないかなとは思いますが、確認して、またご報告させていただきます。

○議長

ほかいかがでしょうか、何か。まだありますか、……。

○委員

いえいえ、わかりました、今のお話。

○議長

ほかどうぞ。

○委員

9ページの2-1-4、右に教師用資料集「ふるさと高砂学」とあるんですが、これをいただくわけにいかんかなと。

○議長

現物をですか。

○委員

はい。

○議長

これはどうなんですか、私もちょっと。2-1-4、上から3行目の教師用資料集ですね。

○事務局

結構ページ数かなりある、ボリュームあるものですけど、学年ごとに何年生になったらこれをやる、工業のこととか、何年生は謡曲をやる、何年生は人物であるとか、そういうのをまとめた冊子、確かに、相当かなりボリュームがあります。

○委員

そうですか。

○事務局

ちょっとあるのかどうか。

○委員

じゃあ結構です。

10ページの2-2-7の竜山石のことですが、ある雑誌の編集後記を見てたら、竜山石は兵庫県加古川市と書いてあるんです。

○議長

なるほど。

○委員

その編集者はよく知ってる人なんで、何だいとこれを送ったんですけど、奈良県御所

市で巨勢の水泥古墳のガイドがそう言うんです。いや、そう聞いたんだと編集者は言っていましたから、そう書いたわけです。御所市までは電話する気なかったんであれですけども、知られてないのかなと思って残念だし、情けないなと思いました。

○議長

先ほど、こういう情報を得られた場合、例えば修正のお願いとか、これは行政がするべきものなんですか。どうなんでしょうか。まず、これ言っていたら、すごく助かった話だと思うんです。例えば、たまたまご存じだったからできたことですが、ほかの方が例えば聞いて、市に、いや、こういう情報が間違ってるんだけど、どうしたらいいというご相談があったらどうなんでしょうか。それも知られてないから知らせるべきだという、今回の趣旨はそういうことですが、例えばそういう、もし。今のところ、そういう対応は考えてらっしゃらないんですか。要はトランプさんじゃないけど、ファクトチェックじゃないけども、正しいかどうかをちゃんと発信するって、大事な話は大事な話で、正しくないことがあれば、それを修正していく、発信していくのも1つの情報発信の方法かなと思いつつながら、先ほど聞いてたんですけど、またそういうのもご検討いただけますか。

○委員

少なくとも御所市のガイドは加古川だと。

○議長

思ってるということですからね。ですから、そういうことを少しお願いしときます。どうぞ。

○委員

済みません、今の件に関して、姫路のガイドの話、横でちょっと聞いていたら、花崗岩を指差しながら、これが竜山石や。全く違うんですね。そういう間違いもあります。加古川のガイドさんが、竜山石には5色あるんやと大きな声で。

○議長

なるほど。

○委員

そういった間違い、近隣でもそんなんあるんやから、別に気にせんでも、間違うて注文されて、違う石が行ったり、違う石を買うたりしたら問題やろうけど、高砂に来てよう見てくれということ違いますか。

○議長

PRの一環にはなるだろうってことですね。

○委員

ええ。

○議長

どうでしょう、何かほかにご意見があれば。お気づきの点でも結構ですけども。

先ほど事務局から各種変更点などもいろいろご説明もあったわけですが、そういった点でも結構ですし、資料、だんだん分厚くなってきまして、毎年のように。先ほど言ったように、文化の見方で整理してみると、これだけいろんな事業があるよと各部局単位で気がつくようになってきたのは悪いことじゃなくて、いいことだとは思っています。非常に見にくいというか、見づらいのであれば、またその辺の修正を考えなければ……。

○委員

いつも敬意は表しますよ。多分いつも同じことを言うとなかなか、200項目以上あると思うんです。敬意は表す。だから、始まる段階でこういう表をつくったほうがいいと思うんです。次のステップへ行くべきです。例えば学習の部分、多分、1のとか2で分類されてるんですよ。例えば1-1で、こういう項目でこういう観点でまとめた、1-2はこうやと。その中に重要な行事を2つか3つ挙げて、その中で統合。きょうは1-1でいって、終わったら1-2いこうとか、1全体の話しようとか。何かそういうふうに、これをもっと整理というか観点別で分けてやらないと、好きな意見をどんどん言うのはいいんですが、あっち行ったり、こっち行ったりで、ささいなことばかりになってしまって、結局何か全体が見えなくなっていく。これは何本かの柱にさせていただけたらなど。観点はどうするのか、学習なのか歴史かイベントや、大きなものと小さいものとか、いろいろあると思うんです。もう一遍、そういう時期じゃないかなと思ったりも、私もずっと思っています。

○議長

最初に申し上げたように、どんな成果があったのかを、そろそろ検証していかないといけない。モニタリングは、先ほど言ったようにどの事業か、一つ一つの事業について確認をしていく。先ほど委員がおっしゃったように、例えばガイドマップづくりはどうなってるのか、1つずつをチェックするのは大事ですが、そろそろ5年もたってきてますから、じゃあこれら番号って、方針を意味してるわけですけど、その方針について、これがすごく効果があったよとか、この事業はこの方針に上げてはいるんだけど、思ったほど成果が出なかったよとか、そのあたり確認をしていかないといけない時期かなと思っています。

きょういただいた意見も踏まえながら少し、どう整理していくかを、次の検証作業に向けての整理の仕方を考えたいと思ってましたので、ちょうどいいご意見いただいたかなとは思っております。

どうでしょうか。そういった今後のことも含めて……。

○委員

枝葉末節の話で申し訳ありませんが……。

○議長

どうぞ。いやいや、事業ベースのあれは大事だと思っています。どうぞ、お願いします。

○委員

4 ページの上から4番目、図書館のところです。昨年度でしたか、館長さんとか来られて、副館長さんも来られてたんでしょうか。そのときに講演会というか、すごく人気があって聞けないんだということで、そのときも言わせて頂きましたが、ライブラリー化は実際できないんでしょうかということ、もう一度依頼をしていただけたらと思うんです。せっかくの貴重なお話を、その場限りで終わるのはもったいないなと思いました。

10 ページ、上から2番目、その他の市史編さんの件です。市史編さんは確かに終わってると思うんですけど、作っただけで終わるんじゃなくて、広げていくのが大事ではないかと思うので、その中からピックアップして、例えば毎月題材を変えてホームページとかにアップして、市史編さんをPRするとか、高砂市のせっかくの市史編さんなので、歴史に興味ある人に、高砂市に興味持ってもらうのは大事だと思うので、そういうことをしていったら高砂市にもっともっと関心を持ってもらえるのではないかと思います。

事業予定に書いてませんが、前の発言では、市史編さんを全部ホームページに載せて、無料で見せるぐらいできませんかと言いましたが、それは難しいということでした。流れとしては、作って終わりじゃなくて、それを生かしていくためにもぜひ、高砂学でも4名の方についてやるということですが、高砂ゆえんの人物をピックアップしたり、市史の中の高砂市の貴重な部分の興味をそそる部分をピックアップして、ホームページに載せていくことでPRしていただきたいなと、これを見て思いました。

それと、同じページの高砂町のサインですが、これも前からお願いとして言ってるんですけど、サインは完了ということですが、あそこに載せてる内容はすごく限られますので、QRコードとかで、ホームページに飛ぶとかして、もう少しそこから深く学べるように、高砂市にはそういう町、高砂の町はすごくたくさん町名があってすばらしさとか、高砂市のよさみたいなことをアピールしていただけたらと思うので、廃止、完了というよりも、継続で見直しという形で、お金も多にかからないと思うので、何かもう一工夫、していただけたらと思います。

11 ページ、上から3番目、28年度の目標2の下に国の文化財として登録をすることで目標として上げられて、29年度も同じようにまた国の文化財として登録するということが上げられているということは、28年度3月末までには無理だろうということだろうと思いますが、その辺りの予測はどんな感じかをお聞きしたい。

その下の文化スポーツの謡曲「高砂」普及のCDの製作販売で、何枚ぐらい売れているのかをお聞きしたい。

15 ページの一番下、活動団体の情報収集で文化スポーツ課がされてますけども、どのように収集されて、どのように新たなアイデアを取り入れられているのかをお聞きしたい。

16 ページの下から4つ、文化連盟等への補助金と、12 ページの3-1-2の文化まつり事業との関係はどういう関係でしょうか。文化まつりとして文化連盟及び加盟団

体が行う事業に対し補助金を交付すると書いてあり、12ページも文化連盟団体、文化まつり事業を実施するのところでまたお金が使われています。分かれて書いてるんですが、両方に文化まつりと出てきていて、その辺の関係は、どのようになっているかを教えていただきたい。

18ページの一番上、これも文化スポーツ課、たくさんあるんで。27年度、評価Cで、28年度は実施中ですけど、企業との連携で毎年上げてるんですけど、どういう工夫をされているのか、きょう商工会議所からも代理で来られてますけど、商工会議所との連携とか、そういう想定された、実施できそうな感じもあるかなと思うんですけど、その辺はどうお考えでしょうか。

以上です。

○議長

幾つかご質問もあったのご意見もあったと思いますが、例えば図書館講演会のライブラリー化ですとか市史編さんの結果の公開ですとかサインの問題です。このあたりと最初におっしゃったところは、今の事業とはまた別の事業の立て方でしていかないといけないかなと思います。例えば、市史編さんの結果の公開を総務課でやれって多分無理だと思いますので、恐らく違った。

○委員

公開は前のときに、難しいということでしたので、その中からピックアップして。

○議長

ピックアップ……。

○委員

そこに興味がいくという意味で。

○議長

要するに、生涯学習に結びつけることだと、多分総務課では難しいので、事業継続ではなくて、これは新たにどうやって発信をしていくか。恐らく委員がおっしゃったのは、ライブラリー化にしてもそうなんですけど、要するにどうやって発信するのか、発信でうまくいってないんじゃないか。そこをちゃんとすべきだということ、今、せっかくある資源をどうやって活用していくのかを考えたほうがいだろうと、こういうご意見で、先ほど案内も含めてお伺いしたということ、まずよろしいでしょうか。

○事務局

はい。

○議長

あと、以下ご質問だったので、消防署の文化財の指定登録ですとか謡曲「高砂」のCDの売り上げ、それから各種イベント情報の収集状況とおっしゃいました。収集と発信の予定も多分あると思います。文化連盟の補助が幾つかあるんですけど、ちゃんと整理できてるのかというご質問と、最後言われたのは企業との連携の具体的成果はどうなのか、

あるいはどういう方針なのかを教えてくださいってことなので、済みませんが、お答えをお願いします。

○事務局

ライブラリー化とか市史のホームページは、またそういった意見があったことは、……伝えるようにいたします。

それと、サインですね、高砂町のサイン。こちらについては、都市政策課でホームページを作成しております。そちらでは公開がされております。

○議長

言われたのはQRコードか何かをつけといて、そこにスマホなんか、そしたらそのホームページにぽんと飛べれば多分一番いいのかなと思うので、そういう工夫もあるというご意見だとお伝えいただけますでしょうか。

○事務局

あと、消防、高砂分署の登録の文化財の……、一応28年9月に申請をしたと聞いておりますので、まず国の文化審議会があるそうですので、その答申があればなるんですけど、今の段階では全くいつになるかはわからないということ。

それと、謡曲「高砂」のCDですが、婚姻届を出された方に市民課、その窓口で配付しております。それプラス今年度の9月からは休みの日、宿直に出された方とかには、窓口だけしか配付してなかったんですが、宿直に提出された方にも渡すようになっております。28年度、今年度は300枚、まとめて購入しておるんですが、ちょっと今正確な資料を持ってないですけども、婚姻届10件ぐらいですか、窓口も出てましたし、この9月から宿直で休みの日に出してる分でも、結構大勢の方にも、宿直、休みに出された方にも渡すことにしたことによりまして、配布できるようにはなっています。

○委員

それは前のときに聞きました。私の質問は、11ページの謡曲「高砂」普及委員会の事業の分なんです。

○議長

謡曲……。

○委員

そう、その販売枚数のことです。

○事務局

商工会議所で販売をしておるので、謡曲「高砂」普及委員会は私も参加させてもらったんですが、相当な数が余ってるとは聞いております。

○委員

実際にきょうも2市2町の集まりがあるんですけど、そちらで希望者に販売することで100枚かな、置いてます。枚数は、余り売れ行きは、数字わからないですけども、つくってから2年、3年たってますので、枚数的にはかなり売れてるとは思いますので、

うちにお客さんとか来られたときには、PRのために直接差し上げたりしておりますので。

○議長

済みません。

○事務局

あと、文化まつり、文化連盟の補助金ですけど、12ページの文化まつり事業で、文化連盟がいろんな事業を1年間通して、さまざまな事業を行っていますが、この12ページにありますのは、そのうちの文化会館とか施設を使った場合、文化まつり事業は市が協賛で、施設を使った基本料金を市が協賛として支払いをしております、施設を使った際の附属設備につきましては各団体が負担しております。

もう一つの、16ページにつきましては、これもそれぞれの文化連盟に補助金として市から文化連盟79万……なってますけども、補助金を支出しまして、文化連盟の中に、それぞれの各団体に事業補助しております。それにつきましては、施設を使わない団体もありますので、それにつきましては、16ページの文化連盟の補助金から各団体に行ってますけども、もう一つは、そのうちの施設使用料について補助してる分は12ページの文化まつり事業の補助でございます。施設を使っているところと使っていないところもあります。

○議長

企業との連携はどうですかね。

○事務局

企業が、その前に活動団体の個人の情報収集の理由ですが、これは具体的には文化スポーツ課としましても、いろんな情報を仕入れたいということがあるんですけども、なかなか新しいこと、情報収集するのに結構。実際のところは難しいんですけど、一応今のところ見ていって、こんなことをやっているということ把握していきたいなとは思ってます。

例えば昨年度、文化賞を受賞された方が個展される場合であるとか、あと例えばこの間は佐々木すぐる生誕祭があったんですが、そういったときには、個人ではないですけども、曾根の美術学院で絵画を勉強されてる方とか、そういった方から作品を募集して、こういったことをやっておりますよと、そういったいろんな事業等々を見ながら、そういう活動をしている場所等を文化スポーツ課でもいろいろ把握していきたいなど。また、その把握した情報を使って、例えば何か違うことに活用できるんじゃないか、最近、佐々木すぐる生誕祭のときにあった絵画、そのときは「月の沙漠」と「阿弥陀音頭」の歌詞を使って美術学院の専門学生の方が絵を描かれてたんですが、例えばそういったこと、作品展示されてるのがあったので、市民音楽祭のときには、それをお借りして、あわせて展示するというふうに活用させていただいたので、こちらもいろんな情報を、伝えると思われることがあれば、そういうふうに活用していきたいなとは思っております。

最後、企業との連携ですが、以前、企業との連携でウイーン合唱団とのコンサートを行うことができたんですが、27年、28年、近年につきましては、そういった企業との連携で何かを行うことはできてないので、またいろんな文化事業等に当たって、そういうことも考えていかないといけないかなとは思っております。

○議長

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

細かいご説明もいろいろあって、途中、ごめんなさい、1つ売れ行きのところの説明不足で大変恐縮だったんですが、いかがでしょうか、こういったご回答だったんですが。

○委員

はい。

○議長

消防署の登録とかは、なかなかその成果が見えてこないところなので、事業としてモニタリングするのは難しいところはあるわけですが、進捗状況としては、今、こういうふうに申請してることは、ご理解いただければということだと思います。

ほかいかがでしょうか、何か。

○委員

5ページ、1-2-3、学校教育です。上から3段目、高齢者の昔の遊び、童歌などを教えてもらって遊ぶ、これが29年度以降廃止になっております。これについては、事業目的が達成されて廃止になるのか、それとも現代っ子はこういう昔の遊び、童歌などに魅力がなくて廃止するのかをお尋ねしたい。

その下の1-2-4、学校教育で、学校のクラブ活動に対して、29年度、中学校の部活動を外部の講師に委託する。これには全部の学校、あるいは全部活動に29年度は実施するかどうか。継続となっておりますけれども、それをお願いしたいと思います。27年度には部活動、茶道・華道、書道、柔道、野球、サッカー、テニスとなっておりますが、それ以外の部活動についてはどうなっているのか、お尋ねしたいと思います。

7ページの上から6段目、文化スポーツ課のトライやるウイークでの受け入れで、国際交流の仕事を通じてというところで、目標が2名となっております。これは6中学から募集が2名だったのか、あるいは全中学で2名しか受け入れられないことで2名になったのか、広く国際的な交流については、全中学から少なくとも募集していただきたいな、2名にかかわらず。1人ずつでも6名になりますので、こういうところに力を入れていただきたいなと思います。

もう一つお伺いしてよろしいですか。8ページの上から4段目、1-3-7、子ども会リーダー育成研修会。残念なことに、私、自治会でいろいろ聞くんですが、子ども会がだんだん少なくなって行って、子ども会が活動停止になってしまう、なくなってしまう自治会があるやに聞いております。それでリーダー研修会、もう少し角度を変えて、昔のように、小学校1年生に上がると自動的に全員子ども会に加入するんだ、今は二、

三年後には子ども会の役員が当たるから、今のうちにやめておくと来年当たるからと、具体化されたとき、やめにくいことで退会をする、こういう人が非常に多いと聞きます。

子ども会活動についても、地域と密着した、地域の教育力をアップする意味においても、子ども会活動、子ども会、子ども自体が地域と密着した活動が必要ではないか、このようにも思いますので、このリーダー育成研修会の、どういう内容で年3回実施されるのか、教えていただきたいと思います。

以上。

○議長

まずご質問で、伝承遊び事業が廃止になった理由、それから指導者派遣の現状。それから、トライやるウィークが2名はどういうことかですね。最後、子ども会のリーダー養成の中身によっては、保護者の皆さんも子ども会をもうちょっと重視してくれるんじゃないかと。子ども会にいてメリットは受けたいけども、デメリットがあるから嫌だというのが今の現状なので、もっとメリットをふやすべきだと。そのためには子どもの育成に役立つことを前面に出すべきではないかというご意見だと思うんですが、お答えできる範囲で手短にお願いできますか。

○事務局

まず最初、5ページ、学校教育課の伝承遊び等廃止の部分。説明が漏れてたんですが、これは今まで幼稚園が学校教育課が所管になっておりまして、保育園が福祉の所管になってたんですが、それがこども園になりまして、所管が福祉に移ったために学校教育課で、廃止でありまして、それは所管が変わったことによるもの、別にこれはなくなったわけではございません。

○議長

なるほど。

○委員

福祉に。

○事務局

福祉に入ります。

その下の学校教育課のクラブ活動の招聘ですが、これについては把握してございません。

あと、7ページ、国際交流及びトライやるウィークが……していますが、国際交流協会では、毎年2名トライやるウィークで受入れしております。各学校が、生徒さんが行きたいところを募集しておりまして、そこでいろんな部署に行っておりますので、これにつきましては国際交流に毎年、大体希望者がありまして、2名、国際交流協会でも受け入れまして、協会の仕事の手伝いをしてもらっております。

その中で、自己紹介等をするのも英語でしたりとか、違う言語をほかの先生に教えてもらって、違う言語でも自己紹介できるようにするとか、そういったことをして理解を

進めているところです。別に全中学校からじゃなくて、それは多分学校で、トライやるウィークのいろんな希望があってやってるんだと思いますが、国際交流も毎年ずっと来てますので、理解、関心を持ってる方も多々あるのかなとは思っております。

それと、子ども会のリーダー育成……、年3回ですが、これにつきましては、どういった事業かまだ把握していないので、またこれも調べさせていただきたいなと思っております。

○議長

一応、リーダー養成の中身についての確認はしていただくとして、先ほど委員がおっしゃったように、子ども会をどうこれから方向になっていくのか、文化審議会ではなくて、むしろ教育委員会のマターではあるんですが、またこういうご意見が審議会に出てきたことは、ちょっと教育委員会にもお伝えください。

確かに地域での教育はこれから重要になってきますし、その中に地域の文化的要素は非常に大きな意味もございますので、そういった意見があったことはお伝えいただけますでしょうか。お願いいたします。

○委員

多分、イベントとか割と高砂市多いので、寄附というか協賛を募る回数が結構多いので、その辺で、協賛金の関係で距離を置かれてる部分も多少あるのかもしれないです。

○委員

例えば企業にしても、たくさんあるんやけど、文化にしてもスポーツにしても。そういうところは、協力せえと言うのもおかしいのかな。ですけど、何か一緒にというか、そういうのが、ちょっと距離を置いているような企業が、感じで。加古川とか、話だけですから実態知りませんが、割と協力してやってるような感じが、外から見たら思うので、ちょっと寂しい思いがあるんですけど、中におったらどう。

○委員

いや、一応、今、高砂未来研究会という企業でつくってる団体が、また別であるんですけど、そちらは9社ですか。9社でスポーツ大会とか、いろいろ実施はしてるんですけど、横のつながりが強いので、情報交換、結構、大企業ってされてる部分はあるのは。

○委員

大企業同士でね。

○委員

大企業同士で。例えば何かお話を持っていっても、横の情報で、こういうの来るから、またどうのこうのって対応を先に練られたりというのを聞いたりはします。余りこれは言えない……。

○委員

済みません、そのことに関しまして、私も、第19回女性未来会議を加古川プラザホテルでやったんです、2泊3日で人を集めまして。代表幹事したんですが、そのとき寄

附金、初めてもらいに行きました。でも、そのとき、最初に加古川市の助役さんから何か所か大きいところ、神戸製鋼だとか、電話だけ入れるから、あとは腕次第だ。でも、それですごく助かりました。そのかわりに、あとチラシをつくったと言ったら、その都度報告。全部企業に出します。加古川市の商工会議所にいただきましたから、全部その都度事細かく、シナリオから全部あれしました。こんなふうに進んでおりますと。

そして途中で、お金をぼちぼち入れてくださいと言いましたら、ちゃんとあれでした。ですから、やり方やと思います。いただくものだけいただいて、あと報告全然なしはだめだと思います。井戸知事を迎えてしまったから、最終的には、そのときの写真もすごく多くお送りいたしました、各企業さんに。そこまでしまして、お礼と、各企業さんのロゴマーク、あれも企業さんが言う、きちっとした規格で載せてくれと言われたんで、それもやりました。

向こうの思われている方向性を入れながら、寄附金をいただく限りはしていったらいいと思います。私たちは、銀行さんの但陽さんにはすごくお世話になったんですが、あそこを中心に地域的なあれで、何か所、同じ金額をずっともらってききましたから、やはりやり方やと思います。ですから、私たちは最終的にはお世話になったところ、お金が黒字になった場合は懇親会もいたします。黒字になりましたので、させていただきますということで、そこまでいたしました。

ですから、かちっとした報告をすれば、もちろん私たちはあれだったんですが、これからは市を通しながら、そういうふうに各個人のグループが個人的に寄附金もらってるのも、市へちょっと教えてよと。それをしながら、企業との連携どうなってるか把握していく、そういうこともすごく大事じゃないかなと思います。ですから、やり方1つやと思うんですね。

○委員

高砂の企業から出た。

○委員

いいえ。高砂は神戸製鋼いただいております。

○議長

先ほど委員が言ってくれたのは、文化団体全般に言える話で、お金を集めるのはなかなかどこでも苦勞されてるわけで、こういうのをファンレイジングといいますけど。ファンレイズをこれから考えろというのは、実は大学も同じです、ファンレイズやれと言われてますので、やらないといけないことのでございますので。

先ほど委員がおっしゃっていただいたように、ちゃんと情報の開示であるとか、やはり寄附したくなる状況をつくっていくのも、これからの文化団体の役割かなと。そういったものを、どうやって行政で支援をしていくのか。つまり、さっき助役の一言と言いましたけど、こうやったらいいよとか、こういうものを支援していくのも恐らくこれからの文化振興の1つの方向性かなと思う。今後、見直しをしていかないといけない。

寄附文化の醸成は、まさに五、六年、要するに東日本大震災以降にこういうものがふえてきましたので、こんなものも、これからの恐らく文化振興の中に入れていかないといけない項目かなと思いますので、きょういただいたご意見も、また次の見直しのときにも入れていったらいいかなとは思っています。ありがとうございます。

よろしいですか。そういうご意見だということ。

○委員

要するに、そう思うんです。だから、中には企業の社会的貢献とかね。

○議長

貢献の中にどうやって……。

○委員

そういうこと我々言っても、もうひとつやから、どこか違うところから、上から言うてもうて、スムーズに行くような協力とか手助けをお願いしたいなと思って、お聞きしたんです。

○委員

ダブりますけど、今のやつと。たこ揚げするのに、ちょっと寄附金が欲しいということで、商工会議所会頭さんから某企業に電話してもらって、あと電話したんやけど、門前払い。高砂市内では全然あかんねんな。よそでもろたことないけど、ただ加古川とか姫路とかのたこ揚げクラブは全部バックアップがあって、かなりぜいたくにやっ取るんやけど、高砂は十何年やってきたけど、ずっと個人でやってまして、全くバックアップないです。それだけです。

○議長

高砂は、多分1つはやはりB to Cといいますか、要するに企業向けの会社が多いです、対企業事業。本来だったら、そのあたりをうまく使えば、もうちょっと乗ってくるこないわけじゃないと思うんですけど、多分そこら辺、もしかしたら工夫の余地があるかもしれません。

ありがとうございます。いろいろとお金の話は今後課題になってくる。要するに、全部行政に頼るわけにいかないというのが今後の方針でしょうから、そこら辺は多分出てくるだろうと思いますが、非常にいいご意見だなと思います。

ほか、何かお気づきのところがありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

……どうぞ。

○委員

済みません、CD販売ですが、ここの部分だけが入ってるんですか。

○委員

3曲です。「四海波」と「高砂」と、あと「千秋楽」と。

○委員

お幾らで。

○委員

100円です。

○委員

100円で。

○委員

はい。

○委員

かなり求めてこられる。

○委員

実際、そうですね。きょうも最初に、会の初め謡っていただいて、2市2町ですから、高砂市以外の方は余りなじみがないとは思いますが、最初に高砂のメンバーで、きょうは謡曲を謡ってスタートしてる、そういうスケジュールを進めてる。謡曲のCDも出ますのでというPRを会場内でして、どれだけ売れるかわからないですけども、一応そのPRはやってます。100円が高いのか安いのかはあれですけど、ただでもよかったんですけど、ただで配るのは、かえってちゃんと聞いてくれないかなというのがあるって、とりあえずCDのケース代とか材料代だけでももらったほうがいいのかなということで、100円という値段設定にしてるんです。

○委員

例えば配付の場合、それはブライダル、結婚なさったら配付する。それが聞いていただけてるのかなというあたりはどうなのでしょう。はい、配った、じゃあ成績としては何枚配ったからAとかBとかCを、そういうのじゃなくて、何か聞いて、CDをつくって、実際のところ聞いていただけてる、何かそこらあたりの調査というか、大層ですが、そこら辺はどういうふうに思ってるか。

○事務局

その後の調査等は、どう使ってるかはわかりませんし、そういった情報は市民課からはもらえないと思うので、後の調査はちょっとできない。

○議長

個人情報だから。

○事務局

学校教育の中で、新婚さんで高砂市に来られました。CDもらいました。子供ができました。子供たちは、今、学校教育の中で謡曲「高砂」を謡う機会があるんです。そこで親はそのときに1回は、あっと思い出す形に、ストーリーの中で、そういうこともいかなとは私個人的には思うんです。高砂市に来た子は、子供さん、保育園のときから謡曲を耳にすることが、幼稚園とか保育園とか小学校で、段階的に文化で進められてるので、そういう流れの中でCDをもらって、あっと気づくようなストーリーは、今つくられつつあると思いますので、検証はしてませんが、そういう流れで進められてるな

というのを聞いておりますので、そういうこともまだ検証はしてませんが、流れをつくってるかなと感じています。

○委員

謡曲を広めていくのは非常にいいことだと思うし、小さいときから親しんでいくのはいいと思うんですけど、音楽をやる者として、そこばかりになっちゃってる。そこから出よう、出ようというか、成長が望めないのかなと。高砂いうたら、もうそれしかないのかみたいな、もちろん謡曲「高砂」で売っていきこうというのが前提にあるんですが、毎回、私言わせていただいているんですけど、クラシックの音楽をする項目が全然ないんです。

この市は、クラシックを認めてもらえないのかな、美術は美術の市展でも、書道もありいの、彫刻もありいんですけど、言うたら、学校教育の中においてもちゃんと指導なさる方、文化連盟で合唱なさるところとかでも、その指導者たるものはちゃんとクラシックのお勉強をされてるわけです。クラシックの、吹奏楽でもそうなんです、きちっとお勉強をしていく若い人たちが育ってるわけなんです。そういう人たちにどんどん場を与えて、その人たちが社会に対して今度貢献していく、いい演奏を聞く、皆さんに聞いていただく、よい指導をしていただく、そういう場がない。

若者イコール何か若者のメッカで、海の間をつくっていくなんていうのが27年、28年、29年で目標にされてますが、それをどういう形と具体的に思ってるのかわからないですが、どうして高砂市の場合は、クラシック音楽のステージが全然ないんだろう。いつまでたっても、この項目の中にあられてこないんです。だから、市としてはクラシック音楽を除外なんですか。

○議長

前からこの件はご指摘はずっとされてたんですが、どうですか。まず1つは、演奏の場ですよね。例えば、先ほど美術であれば市が展示会をやる形で、市がバックアップしてる。けども、音楽については、そういった機会がなかなかないんじゃないかということでしたね。……あったんですかね。

○委員

以前はそういうステージもつくられたりしたこともあったんですからね。

○委員

それに関連したことで。ことし1月から市展が復活し、市展の中でロビーコンサートという場を私はつくりました。今回の場合はクラシックです。クラシックやりました。

○委員

クラシックで……ですね。

○委員

僕は提案させていただいた趣旨は、ただ市展を美術展だけで終わらせたくなく、できれば市の文化の何か発信していく1つの場として位置づけていかないと、単なる作品展

で終わってしまうと、僕自身の不安があったんです。そこにいろんな文化のイベントが入ってきてくださる、そのことで何か1つ、もっと文化的な行事として、中心は美術展か知らないんだけど、ずっと広がっていってくればなという意味で、まず私はロビーコンサートを提案させていただきました。

○委員

非常にありがたい。

○委員

もう一つは、その場で特に僕が考えたのは、音楽をやってる若い人に、ギャラは出せませんが、発表の場を与えられて、そこで育てられたらな。市展の、僕の考えてる、コンサートといえるかどうかわからないんだけど、人を育てる場でありたいな、美術面でも。また、そこに音楽的なものが入ってきてくださって、そこで若い人に発表の場を与えることで、その人たちを育てられたらいいなと考えてるんです。ですから、そういうところで協力してやっていけたらなと考えてますので、私としては。

○委員

いや、美術協会さんには、本当に非常にありがたいなと思いますし、本当に美術と音楽と、作曲家なんかでも絵画を見て作品をつくるとか、共通性もいっぱいありますからいいんですけど、もうしてくださること非常にありがたいし、それがもっと発展していきってもらいたいと思うんですけど、本当に限られた状況なんです。それこそピアノが使えない、電子ピアノを運ぶしかない。

あの場で演奏できることは限られてくるわけです。若い人たちが、それだけで成長することはもちろんあり得ないわけだし、もっともっと行政が後押しをして、若い人たち頑張って演奏できるようになりよとか、しっかりと芸術に対して意識を高めていこうと、何かそういう後押し的な雰囲気は全然感じられへんのですね。

だから文化会館にも1台、ピアノはほとんど使っていない状態なので、例えばロビーコンサートしてくださる折にピアノを使わせてほしい。だから、ロビーに例えばピアノを設置したとしても、この管理が問題であるとか、ピアノの状態のことを考えられて、それはだめだと。何かあっちでもこっちでもグランドピアノはだめだめだめなんです。音出してはいけない。図書館も音を出してはいけない。

今度、福祉健康、文化保健センターは2階で音は出しちゃいけない。展示集会室というてもアップライトピアノしかない、ほかの市とは、そこが愕然の差です。芸術祭を行うとか音楽祭を行うとか、そういう動きにでもなってきたほしいなど。その中で、美術協会さんがやってくださってることは非常にありがたいんですが、それでも物すごく微々たる、ごめんなさい、済みません、少しの動きなんです。だから、そこら辺は、ほかの市に比べて物すごく劣ってる。高砂の謡曲に関してはたくさんあるんですけど、もうちょっとバランス配分をしていただけたらありがたいです。

○委員

やはりピアノだけではなく、バイオリンでもいいですし、クラシックはね。いろんなところで、場所によって。

○委員

いえ、だから頑張ってるんですよ、いろんな楽器を。

○委員

……ところを、無料でもいいから、どこかと提携していく。それを、上手に、もちろん私たちもお声がけするときもありますし、あれしていくので、いろんな団体がいろんな行事されてるじゃないですか。

○委員

ですから、公民館でも無料でやっていく方向にあります。会場を変えると、そこら辺費用が結構かかってきますから、出演者の負担に結構なってくるわけです。そこらあたりで少し、もっと補助が出たりとか、ピアノだけと言ってるんじゃないでなくて、歌うにしても、楽器をするにしても、ピアノ伴奏が要るわけですよ。電子ピアノでメロディーがなるからええじゃないかじゃないんです。ピアノあれば室内楽もできる、ほかの楽器、それから歌う場合も。

○委員

本当にフルオーケストラになったら一番いいんだけど。

○委員

いやいや、そこまで大げさなこと言ってない、そんな大きなこと言って。

○委員

……下から順番、ちょっとずつ広がっていくように持っていったらいいんだけどね、そういう方向性で。

○議長

まず1つは、委員がおっしゃったように、各種団体との連携の重要性は多分おわかりだと思う。もう一個は、高砂市にある資源が使えてないと。つまり、ピアノがあるんだけど、使えない事情があるということで、先ほどのお話を聞いてましたら。

○委員

いやいや、だから公民館に唯一使えるところはあります、グランドピアノを。だから、そこを活用していこうと私たちしてるんですよ、無料のコンサート開いてしていこうとしてるんですね。

○議長

でも、ほかにもいろいろあるんですね。

○委員

市がエネルギーとなってクラシックの分野をもう少し高めていこうと、その動きがどこにも見当たらないんです。

○議長

なるほど。

○委員

たつのも芸術祭として、例えば美術と舞踊とか、音楽とかを一緒にやっていこうという動きが、非常にたつのも発展してるんですが、神戸市でもそうなんです。

○議長

ということだね。

○委員

そこを、ぜひともお願いしたい。

○議長

ジャズとかはいろいろ出てくるんですけど、クラシックは出てこないですからね。

○委員

そうなんです、本当に。

○議長

中には、確かに。その部分は、前々からおっしゃってるところですが、いかがでしょうか、来年度事業の中で例えばそのような。

○委員

きょうも市長も副市長もおってないですけど、結局、今これだけつくるのも大変なんですよね。これをまた質的に上げていこうと思ったらソフト面、そうすると今の文化スポーツ課を見てたら、人が足りないと思うんです。これやったら、どっちかといったら事務的に打てても、何か新しい発想をしていこうと思ったら、何人かのやる者がおらなあかんですね、意欲ある人が。

高砂って人口減っていきようわけですから、ずっと。9万切るん違うか思いますけど。そういう魅力あるといったら文化だと思うんです。そういうことを、もう少し人事の部分で何かしていかないと、今の状態の中で、言うたらちょっとしんどいと思うんです。いらっしゃったらお願いしようと思ったんですけど、いらっしゃらないんで、部長に。そういう人事面で、来年度異動があると思うんです。その体制をしたいなど。大変やと思います。そんなことも示していかないと、我々も要求だけしたって、実際するほうが大変ですから。

○議長

ただ、こういうアイデアをどうやって実現していくのかは、先ほど委員おっしゃった、行政に頼らざるを得ないところなので、そこをうまくやっていただくしかないわけですけど。今おっしゃっていただいたように、行政がどの程度バックアップできるのかという部分に、その部分はお金なくてもできるところなきにしもあらずですけど、そういったところが余りにも見えなさ過ぎるというご指摘ですので、そこは文化スポーツ課でできる部分もあるかと思うんです。

先ほどの美術展における委員のお考え、要するに文化を総合的に発信していくんだと

いうお考えがあってこれはできるわけで、その部分の姿勢が多分行政の側に見えないのが、恐らく委員のご意見でもありますから、そこら辺のは酌んでいただきたいということでございます。

あと、委員がおっしゃったように、文化行政はなかなか市の行政なんで難しいとこだと私も思います。一番、逆に苦手なとこだと思います、正直な話を言うと。創造性が言われるところとか、成果がすぐに見えないところは、なかなか行政マンとしてやりにくいとこだと思いますので、これをどうやって行政マンがやれるかという、まずこういった場でこういう意見を出していただいて、それを具体的にやっていこうというときに、例えば、もしわからないことがあれば、またこちらにフィードバックしていただく。委員会なのか、直接こちらなのかは別としても。やっぱり、民間のパワーを使わないと、そこら辺できないと思うんです。その仕組みは、まだ高砂市はないと思うんです。どうしても行政が全部やってしまう。そこら辺を少し、これは文化行政に限ることじゃないですけど、ある意味、これからの市の政策を考える上で重要なことだと思います。

先ほどポスターの話、私、非常におもしろいなと思って見てたんです。例えばこれだけポスターがあるよと並べてみて、初めてポスターがこれだけあることわかったわけですね。そうしてみると、今までは恐らくポスターさえつくれば発信になると思ったけど、これだけ横並びでやってたら全然啓発になってないじゃないかと、初めてわかるわけで。こういったことが、行政にフィードバック。どうしたら、例えばさっきの下水道の話であれば、よりよい情報発信ができるのかを、行政内部で考えられない、考えるの難しいのであれば、それを例えば民間に投げただけのような発想があってもいいのかなとは思っています。それはまだ今後の話なんですけど。

ですから、全部行政内でやるのは多分難しいと思うんで、そこをどうやって逆に市民やら民間を巻き込むか、これから多分課題だろうと思います。そのあたりうまく協力をいただければ、先ほどおっしゃったところを、どうやって政策の中に組み込んでいくかという議論ができるかなと思うんです。

○委員

いや、私たちの市展は、市の方たちとともに企画しておりますからね。

○議長

やっておられますね。

○委員

ですから、やっぱり上手にそのところで、何かいいことを、違うことをやろうということで、会長の提案もありまして、進行していったところがあります。市の方といつも連携とってますので。

○議長

今回のロビーコンサートも、恐らく市だけでやってたら出てこない発想です。そういったものを実現させていくノウハウは持っておられると思いますので。

どうでしょう、ないですか。

○委員

生石神社に行くときの、私が見落としてるだけなんですか、この辺だったかな、曲がる。明幹を走ってまして、大きな目印が目につかないんですけど、ありましたっけ。

○事務局

今あります。明姫幹線のちょうど曲がるところに。

○事務局

日本三奇・生石神社という看板で矢印つけて、ここ曲がっていただいたら入りますというのをつけてます。

○事務局

大きくつけてますので、また見といてください。

○委員

そうですか。私が見れてない。

○議長

それ、何色の看板ですか。

○事務局

日本遺産なんで、何か茶色な色目の感じの看板で。

○議長

茶色ですか。決まってるやつね。わかりました。

○委員

そこを曲がった後は矢印とかあるんですか。

○事務局

あとは道なりで真っすぐ行っていただくだけなので。

○委員

そうなんです。ちょっと不安になったんです、走ってて。こっちでよかったのかなみたいな。

○委員

狭いもんね。

○事務局

狭いですよね。

○委員

道も狭いね。

○委員

生石神社というこれだけのものなのに、ちょっと案内が寂しいなと思ったんです。

○事務局

そうですね。その辺、意見がちょいちょいあったので、一応、今、産業振興課中心に

サインでもつくるか。

○事務局

いや、サインはうちだけじゃないかな。また庁内で調整させてもらって、見にくいというご意見は……。ありがとう、わかりやすく。

○委員

ありがとうございます。

○委員

先ほどCD、謡曲「高砂」。高砂市の500人……OB会、婚活やってるんです。それで100円であれば、マッチングした人にあげたらいいし、県がしてるこのとり大使も結構マッチングしますので、100円、今度提案します。そして、何とかそれをさばいていけるように、年間、結構回数やっていきますから、この話を出します。よろしくお願いします。

○議長

そのあたり、またよろしくお願いたします。

どうでしょうか、大体皆さんご意見賜りましたでしょうか。

○委員

よろしいですか。

○議長

ちょっと短目でお願いします。時間なので、ごめんなさい。

○委員

12ページの下から2段目、子育て支援室で、子どもでも県民交流広場事業を展開しているわけですが、ここで、このとおり保育園児の作品展を実施しております。今では、以前は1カ月ごとに保育園が米田保育園と西保育園と2園あります。1カ月ごとにしておったんですが、それでは余りに長いし、市民の方も、子どもも参加したいということで、半月ごとにスケジュールを組みまして、そのうちの半月は保育園児、あとの半月は一般市民が絵画、あるいはいろんな作品の展示をしていただいております。非常に好評で、スペースからいきますと、これの4分の1ぐらいのところなんです。そこで毎月展示させてもらってるんです。それが非常に評判もよくて、また市民の校区ごとにこの県民交流広場事業は展開されるべきだったんですけど、高砂では、今、4つの広場事業が展開されているわけですが、それぞれその趣旨は違います。違いますけれども、これについては米田だと思えます。

これがもともと市民の交流が幅広くなりました。どんな事業であっても、人が交流することに価値があると思います。私はあえて、これが非常にいい方向に向いておりますので、時間をとって申しわけないですけど、少しの説明だけさせていただいて、これがもっともっと交流が幅広くなるようにしていきたいなと考えております。

以上です。

○議長

文化をきっかけに交流が深まる。こういった交流が深まると、例えば災害時にも、非常にそういったものがパワーになるということで、文化政策そのものがどう地域を支えていくのかという可能性を示していただいたと思いますので、文化スポーツ課の皆さんも、委員おっしゃったように、大変お疲れだと思いますけど、そういうふうに市民が捉えていただいているということで、ご理解いただければと思います。よろしく願いいたします。

○委員

短く1個。

4ページの1-2-1に都市政策課で景観アドバイザー派遣制度は「(県)」と載ってるんですが、手前みそになるんですけど、担当は文化スポーツ課で、事業の名称は雑誌「子午線」の発行を、県が1つ入るんで、県の事業ですけども、雑誌「子午線」は8市2町が集まって雑誌つくってるわけですが、年に一遍発行してます。ことしは40周年、40号です。おととい原稿が集まったのを見たら、俳句と随筆は、高砂はずば抜けて数が多かったです。小説を除いて全部集めてるわけですが、詩とか。そこには当然高砂市の文化活動とか、そういう欄もあるわけです。

そういうことで、ここにアドバイザー派遣制度が載ってるんだったら、「子午線」、文化スポーツ課も大分時間とってもらってますし、ここに載せてもいいかなと感じました。

○議長

雑誌「子午線」は、私もどこかで見たことあると思うんですけど、それは県の事業でやっておられてということですね。

○委員

去年たまたま市長と隣り合わせたから、これを見ましたかと言ったら、初めて見ますと言うから、文化に力を入れてるんじゃないですかと嫌みを言ったんですけども、初めて去年見たみたいです。

○議長

その部分で、高砂は非常にずば抜けた部分はあるということでございます。

○委員

そうですね。

○議長

この事業って、市民一人一人が文化的な活動をしていただくということですので、先ほどおっしゃった俳句など、個人でできる文化活動においても、高砂は非常にすぐれている。すごくこれはおもしろい特徴じゃないかなと思いますので、非常にいい情報だと思います。またご確認ください。

○委員

随筆のほうは、2年か3年連続最優秀賞、高砂の人。

○議長

そうですか。ありがとうございます。

済みません、お時間を……とりまして、申しわけありませんでした。大体よろしいでしょうか。

先ほども申し上げましたけど、各事業1つずつきちっとモニタリングをして、必要なところを皆さんにご指摘いただいて、不明なところは確認をする作業は、地道ですけど、さっき言ったファクトチェックという非常に大事なところですよ。きょうはその点にお時間をいただきました。

その中でまだ不足する部分もあるということで、ただ、それをどうやって政策に実現していくか、事業に実現していくかは、行政任せにするのではなくて、先ほど言ったように、どうやって私たちも巻き込まれながら、あるいは巻き込みながらやっていくことの必要性があるんじゃないかということがあります。

お金の面についても少し議論が出たんですけど、今後、1つ方向性としては、みずからお金を集める、ファンドレイズという考え方が、多分これから重要になってくるだろうと思います。特に文化団体においては、恐らくそれが必要だろうと思います。それを文化団体にお任せするだけじゃなくて、行政も何らかのバックアップは要するだろうと。ファンドレイザーを文化団体が雇うことはまず難しいですから、例えばその補助を出すとか、そんなことは行政ができる可能性もあります。ファンドレイザーの補助、例えば100万円出したって、1,000万集めてくれば900万円の税金は節約できるわけですよ。そんな発想でこれから考えていかなければいけないだろうと思いますので、このあたりは次の方針を考えるときにも、少し参考になればなと思います。

最後、3番目、今後のスケジュールについて、事務局からご説明お願いできますでしょうか。

○事務局

今後のスケジュールですが、来年度につきましては、文化振興基本方針の見直しを行う年になっております。文化振興基本方針は平成25年に策定しておりまして、5年ごとに見直しをすることになっております。ですので、平成29年度に見直しをしまして、平成30年度から新たな、後期の基本方針がスタートすることになっておりますので、来年度、見直しを行いたいと考えております。

スケジュール案としましては、第1回文化振興審議会を7月下旬あたりに開催しまして、今年度、28年度の事業結果の報告とあわせまして、文化振興基本方針の成果の検証と提言、諮問を受けまして、この成果に関する検証を、また指標を踏まえての課題と反省点の抽出をお願いしたいなと思っております。

第2回文化振興審議会を11月に開催しまして、現在委員の任期につきまして29年9月30日までとなっておりますので、また新たに文化振興審議会委員は委嘱しまして、

検証結果の報告書の案をまず確認しまして、見直しの提言の骨子について、11月に審議をお願いしたいなと思っております。その後、11月はパブリックコメントを実施しまして、12月にパブリックコメントでいただいた意見を整理しまして、第3回文化振興審議会を1月下旬あたりに開催しまして、見直しの提言を含めた最終案を審議しまして、答申といったスケジュールで考えてございます。

また、審議会の開催だけでなく、それまでの間、またお気づきの点とか何かございましたら、随時ご意見をお聞かせいただきたいなとは思っております。委員の皆様におきましては、また引き続きご審議をお願いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長

最初に申し上げましたように、そろそろ成果をちゃんとチェックして行って、方針の見直しを考えないといけない。そもそも文化振興は、もちろん条例にはございますけど、その条例がもとになったのは、実は基本計画でございます。これにつきましても高砂市の後期総合計画についても、今、後期が始まっていることもございますので、そういう意味では時代の潮流をどう捉えていくのか。もちろん全面的に直すという意味じゃなくて、必要なものをつけ加えていったり、あるいは成果がなかったものについては、本当に根本的に見直すことが大事かなと思っております。

それについて、具体的にどういう指標を持ってくるかは、今ここではまだお示しできるまでになってないですけど、きょう、委員からも少し、例えば学習成果とかそういう形で、いわばセグメントをつくって整理してみたらというご意見もございましたので、こういったご意見を踏まえながら整理して、成果を確認していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そうしましたら、進行を事務局のほうへお返しします。

○事務局

それでは、最後に副会長から閉会のあいさつをお願いします。

(副会長 あいさつ)

○事務局

本日は、大変熱心なご審議を賜り、ありがとうございます。

それでは、これにて散会したいと思います。皆さん、お気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。